

第5回 第二次鎌倉市子ども読書活動推進計画策定委員会 会議録

日時：平成24年8月21日(火) 15:00～16:45

場所：中央図書館 多目的室

<議題>

(1) 第二次子ども読書活動推進計画の策定について

(事務局からの説明のあと、質疑応答。要点筆記)

《事務局からの説明》

① 素案の変更点について

(事務局) 素案の資料を事前に配付しているが、前回の会議で出たご意見をもとに修正をしている。修正箇所について説明する。

まず、構成について。第1章の次に、前回第3章だった「第二次計画の基本的な考え方」をもってきた。そして、第3章の「第一次計画における取組み 成果と課題」から取組み事業一覧を除き、所々に統計などを入れ、すっきりと見やすくした。第4章は、最初に前回ご意見をいただいた年代や生活環境に合わせた取組みを、簡潔な形で加えた。取組み事業一覧では、前回でのご意見を受け、左側に第一次計画における取組みを、そして、右側に第二次計画での取組みを配置し、その流れがわかるように、間にやじるしを入れた。資料編については、用語解説は、今回の内容で解説が必要なものをとりあげた。1ページの下に「下線の用語については、資料編をご覧ください」と書き記し、ページの最初に出てきた用語解説にある用語に、毎回下線をひいた。法令等については、できるだけ抜粋にして、見ていただきたい部分にしぼった。

また、内容についてだが、基本方針のところは、家庭、学校、地域・図書館と内容が全体をカバーできるような方針ということで、少し言葉を加えて修正した。

なお、この策定委員会の経過と現在示した素案については、8月15日の教育委員会で報告を終えている。この素案について、委員の方にご意見をいただき、できれば9月の教育こどもみらい常任委員会で素案として報告できればと考えている。

② 教育委員会での報告について

(事務局) 8月15日の教育委員会で出たご意見を簡単に報告する。

- ・表現力を豊かにするために読書は大切、今、学校では教科の前に何か読書に親しむ取組みをしているのか。
- ・学習パックの周知が学校のほうでまだ、あまりなされていないのでは。
- ・学校図書館での蔵書数の増加について、どうなっているのか。

- ・ 寄贈本を活用してはどうか。
 - ・ 教職員との連携という意味で図書館職員の学校図書館部会への出席をさらに進めてほしい。
 - ・ 中学校への学校図書館専門員の全校配置についてはどうなるか。
- など、委員から意見や質問が出て、教育指導課長、中央図書館長が答弁した。

③ A委員からの意見について

(事務局) 本日も園の行事で欠席されているA幼稚園のA委員のもとを訪問し、素案についての意見を伺ってきた。幼稚園からの要望としては、幼稚園教諭に対して読み聞かせ講座のなどがあれば需要があるとのこと。第一次計画でも図書館・行政の人材育成の項目に「保護者・保育士・幼稚園教諭対象の読み聞かせ講座の開催」をあげて取組んできたが、第二次計画では、もっとニーズに合わせた取組みができるように「保護者・保育士・幼稚園教諭を対象とした、ニーズに合わせた講座の開催」としたので、引き続き取組んでいきたい。また紙芝居を園では数多くそろえられないので、図書館で紙芝居を充実させてほしいとのことだった。

④ B委員からの意見について

(事務局) 本日欠席のB委員のから、取組み事業一覧についての意見がきている。第一次と第二次の取組み事業内容がダブルため、第一次取組内容の後に実施状況と点検評価を記し、その次に第二次取組み事業内容を記し、詳細が同じなら同左と表記し、廃止の場合ははっきりと廃止と記入 この熊木委員の内容についてサンプルを作ってみた。サンプルは同左と記入したものと、内容をすべて記入したものと2種作った。これについて、現在のもの、サンプルのもの、どれがよいか意見を。なお、点検評価について、ABC等でなく、言葉で表記した。どれだけやればAなのか等、基準がはっきりしていないためだが、これについても意見をいただきたい。

また、取組み事業一覧にからんで、2つ報告を。印刷が間にあわなかったが、幼稚園に関する部分の担当課から、こどもみらい課をはずすことにした。家庭・地域の8番、「地域の施設図書館（地域文庫・家庭文庫）の実情の把握・連携」については、策定委員会ではもう調査済で第二次からは削るとなっていたが、その後、市民委員から、引き続き図書館ホームページなどで連携をよびかけていただきたいという意見をいただき、削らずに残した。

《質疑応答》

教育委員会での報告について

(委員長) はじめに教育委員会での意見について、どのような答弁をしたのか、

教えてほしい。

(事務局)

- ・表現力を豊かにするために読書は大切、今、学校では教科の前に何か読書に親しむ取組みをしているのか。⇒朝読を行っている。
- ・学習パックの周知が学校のほうでまだ、あまりなされていないのでは。修学旅行は小学校16校中9校しか利用されていない。⇒23年度から始めた事業で、修学旅行が5月に行われるため年度初めすぐということで、あまり利用されなかったのでは。学習パックは要望を捉えて、充実させていきたい。
- ・学校図書館での蔵書数の増加について、どうなっているのか。⇒教育指導課長より回答したが、学校図書館図書標準の80%は達成している。予算の中で蔵書を増やしていく。厳しい予算の中、図書費はマイナスシーリングをかけずに予算を前年並みに確保している。
- ・学校図書館でも寄贈本を活用してはどうか。⇒例えば10年前の百科事典などお断りするものもあるが、寄贈してもらえらるなら、ぜひ活用したい。図書館も学校もPRができていない。以前に環境部で「不要な本を図書館に」とリサイクルを推進したら、図書館に本を寄贈する市民が増えた。図書館の蔵書にするには、古かったり汚かったりする本は、リサイクルコーナーに出したり、廃棄するなど使い道を任せてもらえる場合に限り、受け取っている。
- ・中学校への学校図書館専門員の全校配置についてはどうなるか。⇒教育指導課長より回答したが、粛々と進めていきたいと考えているが、予算的なものもあり、難しい。

(委員長) 教育委員会では、この素案に対しては、このままでよいということか。

(事務局) はい。

素案の変更点・内容について

(委員長) 前回の会議でキャッチフレーズを前にしてはということで、「第二次計画の基本的な考え方」を2章にしたとのことだが、これについては、どうか。成果と課題については、表を抜いたが、どうか。

(C委員) 第二次の計画の基本的な考え方を前に持ってきて、前より良くなったと思うが、3章の中で、他の統計は23年度なのに、6ページのブックスタートの統計だけ22年度なのは、理由があるのか。

(事務局) その他受取という欄があるが、ブックスタートに不参加の方には、市民健康課が訪問したり、図書館からハガキを出して図書館へ取りに来てもらって、ブックスタートパックを渡している。そのため、3月対象の子どもに対してのその他受取の数がまだ確定していない。ただ、平成24年〇月現在とい

う形で、数値を入れることはできる。確定していなくても、23年度の数値を入れたほうがいいか。

(C委員) 可能であれば、23年度に統一した方がいいと思うがいかがか。

(委員長) 事務局で検討するように。

(D委員) 7ページの本の配付状況の表は保育園の合計が違っている。また14ページの職場体験について、行事と表記しているが、学校では活動としている。図書館としては行事として捉えているようだが、ここの表記はどうするのがいいか。

(事務局) 図書館としてカテゴリーは「行事」とし、文章は活動と訂正する。「職場体験」というタイトルも「職場体験活動」と訂正する。

(E委員) 16ページの教職員対象図書館実務研修の参加人数は、どのくらいか。

(事務局) 学校図書館専門員・読書活動推進員、教職員を対象とした研修だが、1日目17名、2日目26名、3日目13名が出席。参加の人数も入れた表に入れた方がいいか。

(E委員) 学校の先生がどのくらい参加しているのか、知りたかった。表に人数を入れてほしいということではない。

(F委員) 採用5年目、10年目の職員が研修を受ける。年によって採用人数が違うので、比較はできない。

(事務局) 中学校からは部活動があるので、7月の研修は避けてほしいと要望があったが、図書館としてもこの日程しか組めなかった。日程の都合がつかず、個別に深沢図書館へ研修にくる教員もいる。学校図書館専門員・読書活動推進員に対しては、年度初めにも研修を行っている。

(E委員) 8ページに 情報の収集と発信ということで、図書館ホームページのことが載っている。この策定委員会の会議録などもホームページで公開しているが、トップページから「こどもページ」に入り「大人の方へ」と進まないと見ることができず、一般市民の感覚では辿り着くのが難しい。他市では、トップページにボタンがあり、クリックすれば子ども読書のページにとぶという自治体もあるので、そのようにできないか。

(事務局) 新着情報などのトピックス欄には、子ども読書のことも掲載しているが、トップページからすぐに子ども読書に関するページを開けるよう検討したい。

寄贈本の活用について

(事務局) 学校でも寄贈本を受けるといった話が出たが、保護者にアクションをとるのは難しいか。

(F委員) 学校図書館は子どもの読書センター、学習センター的なもので、公共図書館とは役割が違う。中学生に対し配架できる本かどうか、検討する必要

がある。お任せいただけるのなら、寄贈本の受け入れもできる。

(事務局) 第二次の計画に寄贈本の活用について載せた方がいいか。

(E委員) 計画に寄贈本の活用を載せるのは、情けない。子ども達の学習に必要なものは、市として購入していくというスタンスを見せるべきだ。

(委員長) 寄贈本は受け入れていくが、計画には載せなくていいということでもいいか。

(G委員) 現在の状況として、寄贈本の受け入れはどのくらい行っているのか。本を大切にすることを養えるし、自分の愛着ある本を人にも読んでほしいという思いは、悪いことではないのではないか。

(事務局) 23年度の寄贈受付は中央図書館で約12,000冊、図書館5館全体では27,700冊ほど。蔵書にするもの、リサイクルに出すもの、廃棄するものと分けている。蔵書にできるものは、半数以下。積極的にもっとPRすれば、廃棄する本も増えると思う。

(G委員) 積極的に計画に載せるより、現場でしっかりやってもらえるといい。

(事務局) 図書館で受けた寄贈本できれいな絵本や児童書などは、保育園や子ども会館・子どもの家にお持ちする。

熊木委員の意見及び第4章について

(委員長) B委員からの提案から、事務局が作成した3つの表を比べてどうか。

(事務局) B委員からの意見は3つ。1つは、担当課は1つでいいのではないか。市民の立場では、これからどういう取り組みをやっていくかが大事で、どこがやるかはさほど重要ではないということ。2つ目は、評価の記載をということだが、数値化して評価していくことは、難しい。3つ目は、第二次が第一と取り組み内容が同じ場合は同左と表記するという。サンプルの2枚目は、同左では見にくいのではないかと思ひ、同内容でも第二次の計画を記したものの。この2つのサンプルと事前に配った素案についているものと3つを比べてどうするか意見をいただきたい。

(E委員) 担当課について、第一次と第二次で全く同じというわけではないので、必要。評価は数値化できればいいが、サンプルのように文章で表わすと実施状況とほぼ同じような印象を受けるので、なくてもいいのではないか。パッと見た感じも、文章が多く見づらいので、元の方が見やすい。取り組み事業内容に関連し、32ページからの学校について、もう少し具体的にやりたいことを載せてほしい。第一次の時よりもやりたいことが見えてこない。事務局で作成しているので、図書館目線になるが、担当課や学校の目線で学校図書館をどうしていくのか、考えてほしい。学校図書館は生きるための読書、学習のサポートをする場。さきほど、図書館の研修にどれだけ教職員が出席しているのか確認したが、他市の学校では教職員が学習でもっと図書館を活用している。連携の項目についても、さきほど学習パックのPRを考えているという話だったが、

もっとネットワークを強化すべきだ。保育グループから自分たちの団体へおはなし会の依頼があった。図書館での訪問サービスのことは知ってはいるが、あまり浸透していない様子。かまくら読書活動支援センターが窓口となり、ネットワークを充実させてほしい。連携の項目にネットワークの強化を入れてはどうか。読書活動がしにくい子どもへの項目では、なんでも相談窓口を設けるだけではなく、調査研究を続けていくということ載せてほしい。待ちの姿勢だけでなく、補足する言葉があった方がよい。

(H委員) 第一次計画と同内容のものであれば、第二次にも盛り込める。指導要領もかわり、現在でも学校も図書館を活用している。

(F委員) 学習パックの貸出数でもわかるように、中学校では、総合的な学習で職業調べなどに、仕事のパックを借りることもあるが、教科で学習を展開できるような専門的な資料が学校図書館や図書館には少ない。

(E委員) 32ページで「学校図書館活用の支援」から「学級文庫の活用」になっているが、学校で図書館の使い方を繰り返し教えていかないといけない。もっと具体的に「レファレンスの支援に力を入れます」など書いていかないと。前回のパブコメでも学校図書館に関する部分が多く寄せられている。漠然としているので、もう少し具体的に課題を反映させていったらどうか。

(事務局) 学級文庫の活用は、学校図書館の支援の具体策として、子ども読書パックを活用してほしいという位置づけ。学級文庫はクラスでどのように使用されているか、現場の声を聞かせてほしい。

(F委員) 中学校でも朝読を行っている。基本的には自宅から本を持ってくることになっているが、忘れた時は学級文庫から読む。そこに子ども読書パックを貸出してもらえらるなら、有難い。

(D委員) 取組み事業一覧の表は第一次と第二次の取組み内容を整理しているもの。その前の説明が大事で、表は参考資料的なもの。表を加筆する場合は、前のページに記載されているものを書く必要がある。学校で取り組んでいることを前半に盛り込むことはできるが、表へは細かくなるので入れなくてもいいのではないか。

(事務局) 「学級文庫の活用」は表現があまりよくなかったが、朝読等で子ども読書パックを活用してほしいということ。表は主なものとして、まとめて書いていると理解してほしい。

(F委員) 第4章の文章と表をリンクさせた方がいいのではないか。

(事務局) 第一次の計画についてもリンクさせたほうがいいのか。今まではそのようにしてこなかったが、必要なら、やる。

(E委員) 第二次だけでいいのではないか。

(委員長) 人材育成の項目が弱い気がする。キャッチフレーズで「本と人の輪づくり」としているのも、もっと保護者・保育者・教職員たちの意識を変えるものがあつた方がいい。ブックスタートで配付しているものを実際に見たこと

がなく、どんなものなのか、園でも計画を見て保育士たちの話題にあがっている。周りにはパワーある大人がたくさんいるので、人材育成を強化して、本と人の輪づくりを進めていけるといいのでは。

本文と表のリンクについてはどうか。

(事務局) 取組み事業一覧の表に、本文のリンクする箇所を記せばよいか。

(F委員) 表は参考なので、本文に表のどこを見ればよいか、入れればよい。

(事務局) 第4章の本文の項目に取組み事業一覧の表の番号を追加する。

(委員長) B委員の意見についてはどうか。

(I委員) 同左ではなく、文字があった方がいい。担当もあった方がいい。いろいろなところが関わっているということは参考になる。

(G委員) 基本的なあり方は、取組み事業一覧は第一次との比較というより、第二次はこのように取り組んでいくということで良いと思う。

(委員長) 表は従来どおりのものでよいか。

(各委員) はい

<その他>

(事務局) 至急素案を訂正し、素案をお送りする。9月の教育こどもみらい常任委員会にかけたあと、パブリックコメントをとる予定。常任委員会で報告し、意見を頂戴して修正し、パブリックコメントの前にもう一度素案を委員の方に確認していただきたい。9月の終わりか10月のはじめごろ、もう一度策定委員会を開きたい。できれば、10月15日の広報にパブリックコメントのお知らせを載せて、10月20日～11月20日まで1カ月パブリックコメントを取り、その後、集計作業をして、意見を反映させたものを作り、また、12月の終わりか1月初めに策定委員会で審議していただき、2月末までに市長決裁という流れになる。

●次回の策定委員会は9月24日(月)15時～17時。中央図書館多目的室にて。